



# 連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局  
Tel 090-4825-7174 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>  
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第 325 号

(創刊 1988.12.14)

2016.10.02.

## 講演学習会

「横環南線地域の直下型地震について」  
(熊本大震災に学ぶ)

東南海地震の発生が危惧される中、生憎の雨にも拘わらず 77 名の熱心な聴衆が参集し、2 時間に及ぶ講演が下記の如く行われました。

日 時：平成 28 年 9 月 24 日(土)  
14:00~16:00

会 場：庄戸小学校 体育館  
講 師：立石雅昭氏 (新潟大学名誉教授)  
主 催：連 協  
協 賛：庄戸四町会合同道路委員会  
参加者：連協、庄戸合同、消防署関係者等



(講演する立石雅昭氏)

内 容：講演の内容は次のとおりです。

### 1. 熊本地震の特徴と教訓

- (1) 規模の大きな地震活動の連続  
4/14 日にM6.5 の地震が発生し、4/16 日にはM7.3 の地震が発生した。従来の地震は、大きな地震が発生した後に、更に大きな地震が発生することはなかった。
- (2) 予測できない震源の移動  
震源が九州を横断して 90km に達する距離に渡って発生し、次の活動を予測できなかった。

### (3) その他

液状化しやすい地盤とは、若い地盤、砂地(泥ではない)、ゆる詰め(低密度)、水で飽和した地盤等であり、低地の軟弱地盤よりも盛土緩傾斜地に激しい被害をもたらす。



(聴衆の皆さん)

### 2. 首都圏直下地震について

谷埋め盛土の地震時危険度簡易判定プログラムが紹介され、庄戸地区や桂台地区の多くはこの危険地帯に属す。

### 3. 横浜南部

#### (1) 予想される大規模地震災害

今後 30 年間に震度 6 強以上の揺れに見舞われる確率は、70%である。

#### (2) 宅地開発、盛土と切土、液状化

東日本大地震の時に仙台郊外の盛土地帯の住宅地がことごとく地滑りを起こし家屋が倒壊し、甚大な被害を出した。

#### (3) 熊本大震災の知見で活断層の外周 30km の被害が大きい(三浦活断層の北部である当地区)。

### 4. まとめ

- 熊本地震の可能性は予測されていた。
- 地盤変状による被害の拡大
- 庄戸・桂台地区の地盤脆弱性は明瞭
- 高い地下水位では、液状化、地滑りの発生は高い。
- 災害時に備えた自主防災の重要性  
(庄戸三 岩倉)

(詳細資料ご希望の方は、事務局へ連絡下さい。)

## 「横浜の大気汚染と被害者救済」学習会 参加報告(9月23日、データ等は学習会資料より)

横環南線計画は7万台の自動車排気ガスによる喘息等の健康被害と著しい騒音被害をもたらすことは必須である。事業者は環境基準を盾に抜本的見直しを行おうとしないまま工事に突っ走っている。このままで供用に至れば公田IC付近の谷戸地域等道路沿線ではぜん息被害発生の大い。ぜん息被害の実態等を学習会で学んで来たので報告します。

### ① 横浜市内のぜん息児童は小・中学校併せて 8.4%の約2万人もいる。全国平均の2倍以上

これは文科省学校保健実態調査(H25年度)によるもので、「校医又は医師等により診断が確定し治療を受けているもの(現に疾病に罹っている生徒数)」というものである。全国の2倍以上は「アレルギー、ダニ、ハウスダスト」では説明が付かない。やはり自動車排ガスが原因(PM2.5)である。

### ② 栄区小学校のぜん息の平均被患率は6.93%

高い順は①庄戸小 15.46%②千秀小 11.22%と横横、国道1号沿い地域の小学校。市平均の8.4%を超えているのは他に飯島小、本郷小。ちなみに桂台小は2.87%。(平成24年度調査)

### ③ 横浜市国民健康保険のレセプト(診療報酬請求書)調査によるぜん息患者数は2.0%

以前より横浜市にぜん息患者医療費補助制度創設要請を行ってきており、市健康福祉局に横浜市健康保険のレセプトでのぜん息患者数調査を行わせた。その結果は平成22年5月診療分で総件数762,320件中のぜん息患者数は2.0%の15,251件であった。すべての病気診療の中でぜん息患者が2%もあることは、前述の学童と併せ自動車排ガスの恐ろしさが見える。

### ④ 公害病認定制度の歴史

- ・1970年(昭和45年):川崎市が独自に救済制度創設。国も公害病認定救済制度実施

- ・1988年(昭和63年):国は全国41の指定地域解除(新規患者救済の打ち切り)
- ・2007年(平成19年)川崎市全市、全年齢の「成人ぜん息患者医療費助成条例」実施
- ・2008年(平成20年):東京都「大気公害被害者医療費助成制度」実施

### ⑤ 横浜市もぜん息患者の医療費助成制度を

東京都、川崎市と比べ横浜市の大気汚染状況は大差ないはずであるが、横浜市は制度創設を拒んでおり、その理由は「横浜でぜん息患者が多いわけではない、財政が厳しい、実施自治体は特別」と言っている。前述の如くぜん息患者は同様に存在していることは明らかである。

### ⑥ 「横浜ぜん息患者の救済をめざす会」結成と 横浜市への医療費助成制度創設要請活動へ

3年余の準備期間を経て標記の会が発足、要請活動を行って行く。会では多くの団体及び個人の参加(団体2千円/年・1口以上、個人1千円/年・1/口以上)を基に市への要請、議会への請願等を行っていく。そして、多くの方のご賛同と参加要請がありました。(参加頂ける方は事務局へmailで連絡願いたし)

#### 明日は私達がぜん息患者かもしれない!

(事務局長 長谷川誠二)

### 対外活動報告

- 09/08 栄区区政推進課、栄警察等(9/24案内)
- 09/09 神奈川県告示(田谷町字堤地内の強制収用手続き開始)
- 09/13 公共事業改革市民会議(於:水道会館)
- 09/14 東京地裁傍聴(外環2、小山証言)
- 09/16 事業者質問・回答会議の質問書提出
- 09/16 神奈川共同行動相談会(秋行動協議)
- 09/18 岩崎ひろし市会議員の現地視察
- 09/23 学習会「横浜の大気汚染と被害救済」(於:県民支援センター、2名出席)
- 09/24 講演学習会「横環南線の地域の直下型地震について~熊本地震に学ぶ~」(於:庄戸小学校、講師:立石雅昭新潟大学名誉教授)
- 09/29 神奈川県公害審議会第27回公害調停